事務局 amateur スタッフによる **フォロー・アップ メモ・ランダム**

“卑弥呼の墓を考える” にて

邪馬台国大和説の根拠の一つとされた三角縁神獣鏡には、魏の年号が鋳込まれている紀年銘鏡があります。その中には卑弥呼が魏から銅鏡100枚を下賜されたという景初三年銘の鏡もあります。青銅鏡には年号の鋳込まれた鏡と鋳込まれない鏡があることを聞いた友人は、500枚前後出土している三角縁神獣鏡にはいろんな年号があると考えていました。しかし、紀年銘鏡はたった10数枚しかなく、それも景初三年(西暦239年)の前後10年間に集中していることに驚いています。

講座でも示された下の表は、紀年銘鏡の鉛同位体類似指数を表したものです。鉛は質量数が異なり、自然界に安定的に存在する同位体が4種類ありますが、その構成比は産地によってまちまちです。逆に言うと青銅鏡内の鉛がどのような同位体の構成比なのかを測定することで産地を特定できることになります。

紀年鏡の相互間の鉛同位体類似指数　　「鉛同位体比から見た三角縁神獣鏡」2007　新井宏より

鏡出土古墳	鏡名称		S2	S3	V1	V2	W1	W2	B1	B2
群馬県柴崎蟹沢	正始元年三角縁神獣	○S1	0.278	0.209	0.048	0.203	0.244	0.156	0.338	0.353
山口県竹島		S2		0.154	0.201	0.132	0.189	0.138	0.183	0.149
兵庫県森尾		☆S3	0.154		0.246	0.022	0.055	0.053	0.129	0.144
京都府広峯15号	景初4年盤龍鏡	○V1	0.201	0.246		0.239	0.280	0.193	0.375	0.389
辰馬考古資料館		☆V2	0.132	0.022	0.239		0.068	0.047	0.136	0.150
京都府大田南5号	青龍3年方格規矩鏡	☆W1	0.189	0.053	0.280	0.068		0.091	0.095	0.109
出所地不明個人蔵		☆W2	0.138	0.053	0.193	0.047	0.091		0.182	0.197
島根県神原神社	景初3年三角縁神獣鏡	B1	0.183	0.129	0.375	0.136	0.095	0.182		0.038
		B2	0.149	0.144	0.389	0.150	0.109	0.197	0.038	
大阪府黄金塚	景初3年画文帯神獣鏡	Y	0.201	0.130	0.116	0.123	0.164	0.076	0.273	0.258

この表ではそれぞれの紀年銘鏡に含まれる鉛の類似性を指数で表現していますが、柴崎蟹沢古墳出土の正始元年鏡(S1)と広峯15号墳出土の景初4年鏡(V1)の類似指数が非常に低く(=類似性が高い)、また森尾古墳出土の正始元年鏡(S3)、辰馬考古資料館の景初4年鏡(V2)、大田南5号墳出土の青龍3年鏡(W1)、出所地不明の青龍3年鏡(W2)の4枚も低いことが分かります。鋳型に流し込む融けた金属を“湯”と言いますが、前記の2枚○と4枚☆はそれぞれ同じ湯で製造された可能性が読取れるようです。☆印の内、出所地不明の一枚を除く三枚は、近畿北部に集中しています。また○印の広峯15号墳もこの圏内に含まれますが、もう片方の柴崎蟹沢古墳はずっと離れて関東にあります。少ない枚数なので分布を考察してもあまり意味はなさそうですが、やっぱり大和は関係なさそうです。

仮に○と☆の組み合わせがそれぞれ同じ湯から造られているとすれば、同時に造られた鏡の年号が違っていることは、少なくとも1枚が、或は全てが、造った年の年号を鋳込んでいないことになります。ではなぜ、これらの年号が鋳込まれたのでしょうか。鋳込んだ人(＝製作を依頼した人)にとってその年号に関心がなければ、ランダムに選ばれた年号が前述の10年間に集中する理由を説明できません。その関心事とは「倭の女王が帯方郡に使いを遣わした」ことだったかもしれません。周辺の蛮族の一つに過ぎない倭からの使いに、魏王朝の中に関心を示す人がいるでしょうか。

ユーラシアの西で劣勢に立たされた一つの国が、世界中に支援の要請を発しています。友軍を送ることが世界大戦になりかねないことを恐れるNATOとは違い、魏王朝には義勇軍を送る余裕がなかっただけでしょう。僅かな中級将校を派遣しただけでは劣勢を挽回することは出来なかったに違いありません。もし卑弥呼らの集団が優勢に転じてその後の歴史を築いていたら、それらの情報が魏やその後の中華王朝に届いていないわけはなく、空白の四世紀が生まれるはずがないと思うからです。この年号を鋳込んだ人は、数十年ほどの昔に劣勢に立たされて魏に支援を要請した集団の末裔たちではないでしょうか。鏡を作った時点では既に大和に奪われてしまった覇権ですが、その昔、彼らと対等の集団であったことに誇りを込めて、この年号を鏡に鋳込み、そして古墳に埋葬したのではないでしょうか・・・。現代に生きる我々は、支援を要請する国が、歴史から消えることがないように、一人ひとりができる精一杯の支援をしていきましょう。

やよい塾12期に登壇された小泉武寛氏は銅鐸を試作するとき、材料として電線用の銅線(純度は99%以上)を使われるとのことでした。弥生の頃は材料の精錬度が限られますから、同じ構成比の湯など作りようがありません。新井宏氏が指摘した構成比の類似性は、三角縁神獣鏡魏鏡説を科学的に否定できる証拠だと思うのですが、未だに論争が続いているのが不思議でなりません。青銅鏡の製造方法では、溶融状態から凝固する際の凝固収縮を補完できずに空洞が発生することや、鋳型に鋳込まれる際、空気や種々のガスが溶湯に巻き込まれて空洞が発生することがあります。これらは鋳巣と呼ばれていますが、これらの微小欠陥の中の気体に炭素年代法が応用できる時代が来るかもしれません。将来、古墳から出土した青銅鏡一枚一枚の、製作年が明らかにされることを期待しましょう。

※ 古代史(弥生時代～飛鳥時代)に疑問をお持ちの方、疑問・質問・反論 大募集 (体裁は自由ですが、文書でお願いします)